

服部地域包括支援センター

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☐ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☐ リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： ケアマネジメントB、短期集中サービス、各包括での体力測定会の実施を円滑に行っていく。 内容： 地域ケア個別会議を実施し、リハビリ専門職に意見を求めるなどし、居宅支援事業所に対して勉強会を実施継続した。ケアプランの勉強会も行い、介護予防、短期集中事業など、介護支援専門員や市民に対して、相談などで、説明啓発を行った。サロン地域教室、相談会でも、包括の啓発とともに啓発実施した。 【課題】 ケアマネジメントB、短期集中全市展開、各包括での体力測定会の実施の初年度で、介護支援専門員や市民への啓発はますますの啓発が必要と考える。通いの場でリーダーの育成や、主体性を引き出すので苦慮している。ローラー作成などの実施でフレイル予防軍の早期発見、早期予防を実施して	通いの場3カ所の新設が行われており、次年度以降地域の社会資源や民生委員との連携で実効性を高めて行かれる予定です。緑地包括合同開催「ケアマネ・カフェ」を何でも言い合える場として4回実施されています。介護予防プランの回では、具体的な目標設定に繋がられる事を留意されています。 具体的な資質向上や、介護支援専門員の理解度・周知状況等、達成度の見える化、それらを踏まえた内容の評価等といったPDCAサイクルの確立が望まれます。

服部地域包括支援センター

		いるが、件数はコロナ禍もあり、まだまだ少ない。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 介護予防に努めることができる仕組みができたことを、居宅支援事業所や地域住民に対して啓発していく。新たに圏域内で、市民に介護予防の相談会を実施し、啓発に努めていく。	

服部地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☒ 予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☐ 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☒ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：市民に対する服部地域包括支援センターの認知度向上。 内容： コロナ禍の状況が続き、地域での行事中止が多かったが、信用金庫等での介護予防普及啓発、相談会の偶数月での実施。中西部主任ケアマネのネットワーク会議を開催し、様々な啓発を実施。服部ほっと瓦版発行も継続し啓発を行った。 総合相談、虐待などすべての相談に関して 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施した。 【課題】 啓発は着実に実施できているが、コロナ禍ということもあり、計画していたスーパーでの実施は延期になっている。 虐待の件数は年々増加傾向にある。包括支援センターがあり、相談できるところがあること、より市民へ伝えていく必要がある。	地域の社会資源を活用し、市民に向けた啓発や相談会の場として定着させていっています。コロナ禍の制限緩和に伴い、スーパーや地域行事での啓発に取り組んでいくことで今後の拡充に繋がられていく予定です。 民生委員との協働や、障害者相談支援センターとの協働で、複合課題に対して連携して取り組まれています。中西部の主任介護支援専門員のネットワーク会を発足させ、連携を踏まえた活動を開始されています。 「服部ほっと瓦版」年 2～3 回発行（発行部数 約 300 部）されており、地域包括支援センターの認知度向上、広報をより印象的にするために、配布されています。拡充された場や仕組みを目標達成に向けた成果に繋がられる事に期待します。

服部地域包括支援センター

		【改善の方策と次年度の取組み】 サロン、民生委員定例会、地域教室、通いの場体験会、健康大学との連携など通して、啓発を行っていく。新しい啓発の場としてスーパーや体育館などへも啓発を広げていく。	
--	--	---	--

服部地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☒地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：地域ネットワーク構築。 内容：中西部主任ケアマネネットワーク会議を開催、主任ケアマネのネットワークを構築し、ケアマネ同士の相談や、スキルアップや負担軽減を図った。高齢部会の実施、企画シートを活用し、地域課題について話し合った。 【課題】 参加事業所に偏りがある。全事業所の積極的な参加と、共通の課題や、情報を共有し解決していきたい。コロナ禍において集会式の高齢部会ができなかったのも、地域の担い手、事業所の担当者など、変更されていることもあり、顔の見える関係を再構築する必要がある。 【改善の方策と次年度の取組み】 継続的な開催、積極的な声掛け。 それぞれの地区での地域課題があり、コロナ禍で、見えづらくなり、地域などの役割が変更になっている。顔の見える関係づくり、情報共有を行っていく。	圏域内の民生委員構成員変更があったため、新たな関係性の構築に努められています。コロナ禍の制限下において、困難となっていた部分の再構築と拡充に取り組まれています。介護支援専門員に対する、適切な目標設定についての勉強会を行い、資質の向上に繋がられています。介護支援専門員との同行訪問を強化し、適切な計画に繋がられるよう支援されています。圏域内の介護支援専門員相互が研鑽できる場として、中西部の主任介護支援専門員ネットワーク会議を設置し、資質の向上に繋がられる場、介護支援専門員同士の情報共有・情報交換の場として定着させていっています。 関係性の再構築が開始され、介護支援専門員の資質向上への枠組みが構築されましたが、具体的な目標を持って成果として評価できる取り組みの拡充が望まれます。

服部地域包括支援センター

○仕様書〔4〕 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☐多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☒体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施し	【目標と具体的な取組み内容】 目標：通いの場の数を増やす。 内容：通いの場普及にむけて体験会を開催した。 コロナ禍において、公園で開催するなど工夫し実施。 独自のチラシを作成し、「ほっと瓦版」も活用している。 地域教室、サロン、医院、豊中健康大学、郵便局、共同利用施設、銀行、小規模多機能施設、圏域内の体育館への啓発を実施した。 【課題】 通いの場の身近な活動場所が少ない。 通いの場の活動意欲の維持が難しいグループもあり、リーダーシップを発揮できる人が乏しい。	公園等も活用した、体験会の開催が行われています。地域の幅広い社会資源に向けた啓発活動が行われています。独自のチラシを作成配布する事で、地域への理解促進に取り組まれています。開催場所を変更する等し、参加者増に取り組まれています。 既存の通いの場、体力測定会ともに、参加者の確保が課題となっています。やることを目標にせず、本来の狙い達成のため、柔軟な発想で、市民が参加しやすく成果に繋がる内容の工夫拡充が望まれます。

服部地域包括支援センター

	ている。	【改善の方策と次年度の取組み】 市民への介護予防への啓発を継続実施。はつらつ教室後の活動場所を増やす取組みを行う。地域の民生委員など繋がりをより増やしていくことで、地域情報を集め、活動場所、様々な活動グループ、リーダーシップを発揮できる人、社会資源を増やしていく取組みを行う。	
--	------	--	--

服部地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☐ 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：認知症でも住み慣れた地域で、生活していける体制を整えていく。 内容：認知症カフェの少ない地域に資源を整えていくよう、施設に協力を経て、カフェを開催した。 嘱託医、初期集中支援チーム、認知症疾患医療センター等の専門機関に相談する体制は同法人が多いということもあり、体制は整っている。 【課題】 地域の方に啓発が不十分で、参加人数が乏しい。 認知症サポーター養成講座の取り組みとして、小学校などへの啓発ができていない。 地域で認知症の方が参加できる社会資源が少ない。	医療機関母体である事の強みが発揮されており、包括内にも精神保健福祉士が配置されています。認知症カフェを通いの場とコラボレーションする形で、実施されています。参加者を募り実効性を向上させるためにも、開催方法の多様化に取り組まれていく予定です。認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チームとの連携を中心に専門機関や関連する専門職や社会資源との連携が確立されています。 認知症カフェにこだわる必要はありませんが、当事者や家族の居場所、レスパイトの場所、認知症に対する理解促進のための啓発の場となる、展開の工夫が望まれます。

服部地域包括支援センター

		【改善の方策と次年度の取組み】 民生委員、校区福祉委員に啓発し、地域で認知症カフェを必要としている方に呼びかけをしてもらう。地域サロンや事業所へも出向いて啓発し、本人、家族、地域がつながる仕組みを行う。キッズ認サポを計画し、小学校への啓発を進める。	
--	--	--	--